

令和6年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	6104	領域略称名	水圏機能材料
研究領域名	水圏機能材料：環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成		
領域代表者名 (所属等)	加藤 隆史 (東京大学・大学院工学系研究科・教授)		

(評価結果)

A+ (研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる)

(評価結果の所見)

<p>本研究領域は、既存学問分野の枠を超えた新興・融合領域の創成を目指すという目標を掲げ、多彩な分野の研究者が「水」と「材料」の相互作用を分子レベルおよびナノ集合レベルで検討し、水圏機能材料の創成という共通課題において顕著な成果を挙げている。特に、計測技術と計算科学の進展により、「つなぐ」「はたらく」「つくる」の3つのサブグループで優れた成果が挙げられている。これにより、「水環境（水圏）で機能する材料の構築学」と「水の基礎物性科学」の融合が進み、水圏機能材料および水圏機能材料構築学という新学術領域の形成に向けて著しく前進した。これらの成果は、設定された目標を十分に達成し、期待を上回るものであると認められる。</p> <p>中間評価結果で指摘された事項についても適切に対応され、研究成果としては、水処理膜、生体親和性コーティング、分子接着剤、イオン捕捉材料や電子・イオンセンサーの創出など、社会実装への足掛かりも得ている。研究者間の有機的な連携により、化学と物理、実験と理論・シミュレーション、合成と構造・物性といった分野で統合された成果が挙げられた。成果の質・量ともに十分であり、アウトリーチ活動を通じた成果の普及にも努めている。また、若手研究者の育成にも十分な配慮がなされ、当該分野の継続と発展が期待できる。今後も、この学術分野を更に発展させてほしい。</p>
